

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十六年卯月



拝啓 いよいよ今年も花見の時節がやってまいりました。皆様お元気で過ごしてでしょうか。

造りが一段落しますとさまざまなイベントが開催されます。3月14日(金)には「しずおか酒米 誉富士 お酒の会」がJR東静岡駅に隣接するコンベンションセンターで開催されました。誉富士普及推進委員会と静岡県中小企業団体中央会が主催したものです。交通の便の良い会場であることと3,150円という会費の安さも手伝ってか、若者や女性を中心に70名ほどのお客様が集まりました。他の蔵元数社とともに参加しましたが、わが臥龍梅の人気は上々で、一緒に持ち込んだ山田錦と雄町の純米大吟醸ともどもいち早く売り切れておりました。その翌日、15日(土)には焼津のホテルアンピアで開催された「ふじのくに未来をひらく農林漁業奨励賞」受賞祝賀会に出席いたしました。これは誉富士の生産農家である大井川農協の**焼津酒米研究会**の皆さんが、酒米栽培技術確立への取り組みを認められて県知事褒章を受章されたことを祝うものです。弊社は平成17年の立ち上げのときから積極的に誉富士を使ってまいりました。山田錦とも五百万石とも違ったふくよかな香りとデリケートな味わいの誉富士のお酒は今や臥龍梅の主力商品のひとつです。ここはひとつお祝いに駆けつけねばと出席しました。



「酒米というのはどれもそれなりの気候風土のもとで育ってきたものだ、安易な気持ちで他所の酒米に手を出すべきではない、最初におたくの杜氏さんにそう言われて発奮して頑張ってきました。」宴もたけなわになったところで生産者のひとりからそう聞かされました。その時のことは私自身も鮮明に記憶しております。まだ誉富士が開発される以前で、酒米研究会の皆さんが山田錦に取り組んでおられた頃の話です。弊社は、その後も毎年、焼津酒米研究会の皆さんが生産した米を指定して購入してきました。その姿勢をわかった上で、そう言うてくださったものと思います。晴れの日を迎えることができ

てよかったなと心底から思いました。そして、新しいことを初めてから成果を得るためにはやはり10年の年月がかかるのだなとも思いました。翌日の16日(日)は市内の料亭大花で**こしきだおし**の祝宴を催しました。今年は9月下旬に蔵入りしてもらいましたので、もうほぼ半年になります。後は醪を上槽しながら岩手へ帰る日を指折り数えて待つばかりとなりました。菅原杜氏以下蔵人一同のリラックスした笑顔をご覧ください。皆さん、本当にご苦労様でした。



さて、今月は**愛山 50%精米の純米大吟醸**をご案内いたします。消費税増税後の4月以降の、**景気づけ**の商品としてご用意しました。身を削る思いの努力で設定した価格です。(出血大サービスですので今年限りの商品になるかもしれません。) 先月の**開壇十里香**と同様、あっと言う間に完売することが予想されます。どちら様もお早めにお求めください。

春和の候、皆々様には益々お元気で過ごされんことを。

平成26年4月吉日

敬具

鈴木 克昌